



絵本と子育て

横浜市こども青少年局こども保健医務監

岩田 眞美

もともと趣味は読書と書いていたくらいで、本は大好きです。妊娠出産を機に、絵本の世界を知り、その楽しさと奥深さに魅了されました。おすすめ本を求めて本屋を回り、その場の出会いでハッとするものを見つけたりして、たくさんの絵本に囲まれた子育てになりました。0歳の時には、毎日ルーティンのようにして同じ絵本を読んで見せて、親の思い込みかも知れませんが、娘が反応していると喜んでいました。絵のインパクトがあるもの、ことばのリズムが楽しいもの、遊びの要素があるものなどから、ストーリーのあるものまで、また日本のものや海外の違った国々のもの、絵のタッチも内容に合わせて様々なものがあり、魔法のように、その場に一瞬で不思議な世界が出現します。

娘たちはとても熱心な観客で、母の私は1人芝居の女優であり、時にはミュージカルのようにセリフをメロディーに載せます。同じ絵本であっても、繰り返してであっても、お互いの気分やノリで色々なバリエーションが楽しめます。娘の様子を見ながら、時には舞台に上げて一緒に楽しみ、私自身、当時の娘たちとの貴重なひとときでした。娘にとっても、ママを独り占め出来て、自分の反応を喜んでもらえる時間だったのかなと、勝手にうぬぼれています。夢の世界の魔法が解けないためのルールは、気持ちを切り替えて現実世界のイライラを持ち込まないこと、時間を気にしてあせらないことでしょうか。もちろん時間は有限なので、読む本の数や読む回数で調整です。

私が、娘たちと絵本を読んで楽しかった時間を懐かしく思い出したのは、娘から当時のお気に入りの絵本の1つをネットで探して入手したと聞いたからです。リズムカルな文に、私が勝手に節をつけて読んでいたのを、そのまま覚えていて、不確実なところを確認したくて買ったそうです。それを聞いて、嬉しくなりました。

今は、手軽に動画が見られて便利に使われていますが、一方的で受け身なのが気になります。絵本は、その子に合わせて、声の調子やスピード、繰り返しや説明など親が自由にアレンジできます。親子がふれあいながら一緒に楽しめます。絵本と一緒に、親子のあたたかい思い出を残してみたいかがでしょうか。

